

ブダペスト商科大学(ハンガリー)交換留学

第2回 留学だより(2016年11月～12月分)

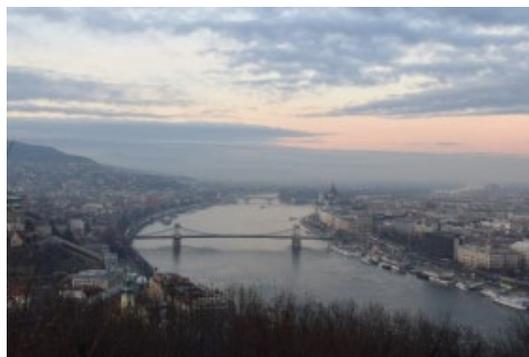
経済学部 3年 長田 陽平

まずハンガリーの様子をお伝えします。日本では、関東でも積雪があるなど、冬景色の様子を思い浮かべます。しかし、ハンガリーでは、降雪はあるものの、積もることはまだありません。その理由はハンガリーが内陸に位置し、さらに、北東をカルパチア山脈に囲まれた盆地にあるからです。また、古代にはパノニア海と呼ばれる大きな湖があり、その水が流れ出して大平原ができました。ハンガリーの国土は周囲の土地よりも低い地形になっています。そのため、海からの湿った空気は、ハンガリーに流れ込むころには、すっかり乾燥してしまい、よってハンガリーは雪が降りにくい気候なのです。空気がひどく乾燥しているので、日本にいるときよりも肌のケアを入念に行っており、自分の女子力が非常に高まっていると思います。



Christmas Market in Szent István Bazilika

セントイシュトバーン大聖堂前のクリスマスマーケット



A view from Gellért Hill

ゲッレールト丘からの景色

もう一つハンガリーの様子としてお伝えしたいのが、日本にはない、夏時間と冬時間です。高緯度に位置する国々は、日の出から日の入りまでの時間が、夏では長く、冬では短いという特徴があります。すると、夏は日照時間が長いため、非常に暑く、冬はそれが短いため、気温が上がりにくいという気候になります。冬のハンガリーは、朝8時ころにようやくお天道さんが顔を出しますが、その太陽の高度はずっと低いままで、午前12時ころは、夕焼けと見まがうほどまで日が落ちます(というよりは昇りません)。午後4時ころにはすっかり日が沈み、暗闇が訪れます。

そんな怠惰な太陽の一日に、この時期は、どんなに勤勉な学生も、寝坊して授業に遅れてしまうなどすこし怠けてしまうそうです。ハンガリーでの勉強については、前回も同じ内容だったと思いますが、日々が学習漬けです。朝8時から、遅いときは6時過ぎの授業まで授業に出席し、帰寮後直ちに復習と予習をします。晩ご飯を食べて、ハンガリー語を勉強です。それはまるで、単調なゲームをやっているような、しかし緩急があって飽きのない、思惑が入る余地がないといったほうがより忙しそうなお表現で的確かもしれません。とにかく、日々が充実していて非常に楽しく過ごしています。



エルテ大学日本語クラブの様子

そんな忙しい日々の中で私がとくに楽しみにしていることは、ハンガリー人との飲み会です。現地人との交流が留学の楽しみの一つであり、最大の目的であると思っています。つい先日は、日本語学科のあるエルテ大学の学生と、日本語クラブと称した飲み会を開きました。ブダペスト市外にある田舎のバーに集まって、いろんな味のご当地ビールで乾杯をしました。お酒が入るとおしゃべりになる人はいると思いますが、僕の場合は、英語が堪能になります。これは不思議な現象です。母語である日本語では、日本人の性格というのか、酔ってもなお“空気を読もう”と無口になりがちです。しかし、英語となると、いや日本人が飲み相手でないからか(英語を話す場合は当然日本人が話し相手ではないのですが)、非常に饒舌になります。彼らに失礼なことを言っていないと良いのですが・・・とそこまで酔うほど飲んだりはしません。大学の寮に帰れず追い剥ぎにあったら困りますからね(笑)